

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和6年度】

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 162-0825

所在地 東京都新宿区神楽坂2-4 結城ビル4F

評価機関名 特定非営利活動法人 NPO人材開発機構

認証評価機関番号

機構 02 - 005

電話番号 03-5206-7831

代表者氏名 理事長 水谷 正夫

以下のとおり評価を行いましたので報告します。



評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	水谷 正夫	福祉、経営	H0402001
	②	安富 悠子	福祉	H0602001
	③	草野 澄江	福祉	H0202082
	④	長嶺 恭子	福祉	H1801041
	⑤	大内 和史	経営	H1401003
	⑥			
福祉サービス種別	児童発達支援センター(旧福祉型児童発達支援センター)			
評価対象事業所名称	江東区こども発達センター			指定番号 1350800254
事業所連絡先	〒	135-0043		
	所在地	東京都江東区塩浜2-5-20 塩浜福祉プラザ1階		
	TEL	03-5632-2591		
事業所代表者氏名	園長 金上容子			
契約日	2024 年 10 月 10 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2024 年 11 月 1 日			
利用者調査結果報告日	2024 年 11 月 25 日			
自己評価の調査票配付日	2024 年 10 月 30 日			
自己評価結果報告日	2024 年 11 月 25 日			
訪問調査日	2024 年 12 月 18 日			
評価合議日	2025 年 1 月 17 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査は、施設の連絡アプリを通して、Webによるアンケート調査を依頼し、評価機関にWebによって回答を得た。職員にもWebで自己評価調査票の回答を得た。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- ☒ 機構が定める部分を公表することに同意します。
☐ 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
☐ 別添の理由書により、公表には同意しません。

2025 年 2 月 12 日

事業者代表者氏名

金上容子



1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） ＜理念＞ 1) 利用者・保護者の一人ひとりを大切にする（一人ひとりに応じた支援） 2) 利用者・保護者・職員の権利擁護 3) アセスメントに基づいた発達支援 4) 地域と連携した支援 ＜サービス提供の考え方＞ 早期発見・早期支援の考え方に基づき、その発達の程度に関わらず、支援が必要な児に幼児期に必要な支援を地域と協力して届ける。児童発達支援、保育所等訪問支援、区相談事業、相談支援事業の連携が重要である。
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上） （1）職員に求めている人材像や役割 ①人材像：愛情をもって、人・物事に取り組む人 ②与えられた仕事に真摯に取り組む姿勢 （2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） ①利用者・保護者・職員間・自分自身を大切に育む気持ち ②主体的に物事を考えていく姿勢 ③日々の作業の積み重ねを根気よく行う姿勢

調査対象

評価時点での利用契約者267名を対象とした。男児194名、女児73名で、平均年齢は4.3歳である。一日通園51名、半日通園168名、低年齢グループ48名である。

調査方法

利用者調査は、施設の連絡アプリを通して、Webによるアンケート調査を依頼し、評価機関にWebによって回答を得た。

利用者総数	267
利用者家族総数(世帯)	267
共通評価項目による調査対象者数	267
共通評価項目による調査の有効回答者数	197
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	73.8

利用者調査全体のコメント

「現在利用している事業所を総合的にみて、どの程度満足していますか」との質問に対して、「大変満足」96名(49%)、「満足」93名(47%)、「どちらともいえない」6名(3%)、「不満」「大変不満」はともに1名(1%)の回答であった。満足群は189名で全体の96%を占めている。「活動は興味や関心を持てるものになっている」「生活スペースは清潔で整理された空間」「子どもの支援に関する計画を作成したり見直しをする際に、子どもや家族の状況や要望を聞いてくれている」「子どもの様子や支援の内容について事業所と情報共有ができていく」の質問では満足度は高かった。一方、「困ったときに職員以外の人にも相談できることをわかりやすく伝えてくれている」の質問では満足度はあまり高くなかった。コメントとして「子供の成長をよく観察して、その時々に応じた課題計画を作成し実践してくれている」「面談を定期的にしてくれるなど、対応がとても手厚い」「不安や疑問に思っていることを相談しやすい雰囲気」などのコメントがあがっている。また、「先生との面談、相談機会をもう少し増やしてくれると親は安心」「施設での子どもの様子をもう少し知りたい」などの声も聞かれた。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 事業所に通うことが、子どもの身体の機能や健康の維持・促進の役に立っているか	181	15	1	0
「事業所に通うことが、お子さんの身体機能や健康状態に良い影響を与えていると思いますか」との質問に、181名(92%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」に15名(8%)、「いいえ」には1名(1%)の回答があった。「身体の使い方が上手になっても、どのようにしたら使えるようになるか考えてくれている」「その子のレベルに合わせて教えてくれる」「叱られるだけではなく、何でもダメなのかちゃんと説明してくれる」「通所日をとても楽しみにしていて、親としても成長を実感している」といったコメントがあがっている。				
2. 事業所での活動は、子どもが興味や関心を持てるものになっているか	187	8	2	0
「事業所での活動は、お子さんが興味や関心を持てるものになっていると思いますか」との質問に、187名(95%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」に8名(4%)、「いいえ」には2名(1%)の回答があった。「様々に工夫された活動が行われていて、毎回子供は楽しんで参加している」「帰りに何をしたら楽しそうに教えてくれる」「子どもの興味を考慮しつつ、個々の課題に添った活動内容になっている」「個人的に興味がある内容を織り交ぜることで、より関心を持って取り組んでいる」といったコメントがあがっている。				
3. 事業所に通うことが、子どもの情緒面での発達(感情のコントロールを身につける等)の役に立っているか	164	31	2	0
「事業所に通うことが、お子さんの情緒面での発達(感情のコントロールを身につける等)の役に立っていると思いますか」との質問に、164名(83%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」に31名(16%)、「いいえ」には2名(1%)の回答があった。「どうすればいいのか子供の目線で指導してくれていると感じる」「子どもが大きくなるに連れ、CoCoでの経験が役に立っていたのだと感じることが多くある」「喜怒哀楽の表現が少しずつできてきている」といったコメントがあがっている。				

4. 事業所に通うことで、子どもに社会性(人と人との関わり合いやルール等)が身についているか	163	32	2	0
「事業所に通うことで、お子さんに社会性(人と人との関わり合いやルール等)が身についてきたと思いますか」との質問に、163名(83%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」に32名(16%)、「いいえ」には2名(1%)の回答があった。「活動の中で人との関わり、挨拶などのルールを学んでいるようである」「ルールのある遊びや、お友達との集団活動で関わり方を学んでいる」「順番待ちや集団の中で決められたルールに従って遊ぶなど、以前よりも身についてきている」といったコメントがあがっている。				
5. 子どもの様子や支援内容(体調変化時の対応含む)について、事業所と情報共有できているか	186	8	3	0
「お子さんの様子や、支援の内容(体調変化時の対応含む)について、事業所と情報共有できていますか」との質問に、186名(94%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」に8名(4%)、「いいえ」には3名(2%)の回答があった。「頻繁に先生と面談をして、現段階の発達面など情報を共有している」「支援を受けた日は、取り組みや様子をアプリで確認できるのでとてもありがたい」「行動の様子、態度など細かい箇所を共有している」「こまめな面談があるので、その都度擦り合わせがある」といったコメントがあがっている。				
6. 家族に対する精神的なサポート(子育てに関する悩み相談や進路相談、家族間交流の機会の提供等)は役に立っているか	147	36	5	9
「家族に対する精神的なサポート(子育てに関する悩み相談や進路相談、家族間交流の機会の提供等)は役に立っていると思いますか」との質問に、147名(75%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」に36名(18%)、「いいえ」には5名(3%)の回答があった。「定期的に面談が実施されており、子育ての悩みや進路の相談ができています」「子に関する悩みを親身になって聞いて、適切なアドバイスをいただいている」といったコメントがあがっている。また、「もう少し指導してほしい」といった声の一部が聞かれた。				
7. 事業所内の清掃、整理整頓は行き届いているか	188	6	2	1
「あなたは、江東区子ども発達センターの生活スペースは清潔で整理された空間になっていると思いますか」との質問に、188名(95%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」に6名(3%)、「いいえ」には2名(1%)の回答があった。「いつも清潔で整理整頓されている」「綺麗になり、トイレが特に使いやすくなっている」といったコメントがあがっている。また、「2クラス共通で使用しているため、トイレが汚れている」「施設は新しくなって綺麗だけど、おもちゃやボックスが古くてボロボロ」といった声の一部が聞かれた。				
8. 職員の接遇・態度は適切か	183	11	2	1
「あなたは、職員の言葉遣いや態度、服装などが適切だと思いますか」との質問に、183名(93%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」に11名(6%)、「いいえ」には2名(1%)の回答があった。「丁寧に接してくれ、子供に対しても指導する姿勢がしっかりみられる」「どの職員の方も服装も適切できちんに対応している」「子どもだけではなく、保護者への声かけもしてくれ、何かあれば相談しやすい雰囲気がある」「適切だと思います」といったコメントがあがっている。また、「職員による」といった声の一部が聞かれた。				
9. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	156	11	2	28
「お子さんがけがをしたり、体調が悪くなったときの、職員の対応は信頼できますか」との質問に、156名(79%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」に11名(6%)、「いいえ」には2名(1%)の回答があった。「体調が悪くなったときは、すぐに電話で連絡をくれる。看護師の方が適切に対応してくれるので安心している」「子どもをよく見ていて、必要な連絡もしてくれて信頼できる」「ちょっとしたケガで絆創膏を貼ったという際でも、詳しく報告してもらえる」「すぐに対応してくれる」といったコメントがあがっている。				
10. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	141	21	4	31
「あなたは、子ども同士のいさかいやいじめ等があった場合の職員の対応は信頼できますか」との質問に、141名(72%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」に21名(11%)、「いいえ」には4名(2%)の回答があった。「ケンカしていると注意して離している。先生たちも多いので、どなたかが見ているので助かる」「先生を信頼しているので大丈夫」「子ども同士のいさかいやいじめ等の経験がないが、信頼できると思う」「公平な立場で対応してくれていると思う」といったコメントがあがっている。				

11. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	184	10	2	1
「あなたは、職員がお子さんの気持ちを大切にしながら対応してくれていると思いますか」との質問に、184名(93%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」に10名(5%)、「いいえ」には2名(1%)の回答があった。「いつも丁寧に子どもたちに接してくれている」「子どもたちに寄り添ってくれていると思う。細かいところもきちんと見てくれているのが、報告書を見ているとよくわかる」「だんだんと子どもも心を開いているように感じる」「子どもの気持ちをくみ取りながら対応している」といったコメントがあがっている。				
12. 子どものプライバシーは守られているか	165	19	7	6
「お子さんやご家族のプライバシー(他の人に見られたくない、聞かれたくない、知られたくないと思うこと)を職員は守ってくれていると思いますか」との質問に、165名(84%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」に19名(10%)、「いいえ」には7名(4%)の回答があった。「子育て相談の時にグループではなく個別対応してもらった」「面談や大切な話は別室で話してくれている」といったコメントがあがっている。また、「保護者面談が他の方と一緒に時間帯があるので、少し気を遣う時がある」といった声が多く聞かれた。				
13. 個別の計画作成時に、子どもや家族の状況や要望を聞かれているか	188	7	2	0
「お子さんの支援に関する計画作成したり見直しをする際に、江東区こども発達センターはお子さんやご家族の状況や要望を聞いてくれますか」との質問に、188名(95%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」に7名(4%)、「いいえ」には2名(1%)の回答があった。「支援計画の作成前にニーズ調査がある」「細かい項目別で最適な目標を作ってくれてありがたい」「要望を踏まえ、計画書を作ってくれていると認識している」「いつも親身になって計画を立ててくれている」といったコメントがあがっている。				
14. サービス内容や計画に関する職員の説明はわかりやすいか	184	10	1	2
「お子さんの計画やサービス内容など、事業所での生活についての説明は、わかりやすいと思いますか」との質問に、184名(93%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」に10名(5%)、「いいえ」には1名(1%)の回答があった。「丁寧に説明してくれるのでわかりやすい」「支援計画に添って説明してもらえる」「わかりやすい」といったコメントがあがっている。				
15. 利用者の不満や要望は対応されているか	158	15	5	19
「あなたが不満に思ったことや要望を伝えたとき、職員は、きちんと対応してくれていると思いますか」との質問に、158名(80%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」に15名(8%)、「いいえ」には5名(3%)の回答があった。「何かあってお伝えしたことは、必ず職員の方々と共有して対応してくれる」「不満なことはないが、対応はきちんとしてくれると思う」といったコメントがあがっている。また、「対応が遅れることが度々あったりする」といった声が一部に聞かれた。				
16. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	122	39	9	27
「あなたが困ったときに、職員以外の人(役所や第三者委員など)にも相談できることをわかりやすく伝えてくれましたか」との質問に、122名(62%)から「はい」の回答が得られた。「どちらともいえない」に39名(20%)、「いいえ」には9名(5%)の回答があった。「親身になって、いろいろ相談に乗ってくれている」「区役所など利用している」といったコメントがあがっている。また、「どこに相談するのがベストなのかわからない」といった声が一部に聞かれた。				

I 組織マネジメント項目（カテゴリ1～5、7）

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ○非該当
	カテゴリ1の講評	
	センターは区との指定管理契約に基づき、児童発達支援センター事業他を推進している 江東区こども発達センター(以下、センター)は、法人の基本理念「一人ひとりを大切に」の精神を引き継ぎ、区との指定管理契約に基づき、事業運営の目標を定め、施設運営の改善・効率的運営とサービスの向上に取り組んでいる。また、発達支援施設として地域の中核的役割を担い、障害者総合支援法及び児童福祉法に基づいた「児童発達支援センター事業」、「保育所等訪問支援事業」、「特定・障害児相談支援事業」、区条例に基づく「相談事業」を推進している。年度初めには法人の全職員を対象の研修があり、法人の理念や各事業の運営方針の説明がある。 園長は、全職員分担の管理業務や療育について、方向性を示し話し合いを大切にしている 法人職員対象の研修会では、事業組織図で各事業、理事会、運営委員会、専門職チーム等の体制と役割の説明がある。園長は、施設運営に関わる管理業務は全職員で分担するとして、「施設管理・保健衛生・要保護対策権利擁護」等、10の委員会の狙いと主要業務、責任者と委員を決めて周知している。事業単位に置いたリーダーから上がる様々な報告に対応しながら、行事等の計画作成時には、主任と参加して職員の作成をサポートしている。療育に関しては、ケース会議で困っている事に対しての方向性を示す等、話し合いを大切に事業所運営に努めている。 案件により代表者を決めて、理事会・運営委員会・リーダー会が対応を検討している センターは案件により代表者を決めて、理事会・運営委員会・リーダー会が対応を検討している。療育の方針や個別支援計画の策定等はリーダー会で検討し、事業運営や職員採用等の件は、塩浜と分室の園長及び理事長による運営会議で方針を決めている。決定事項は、療育のクラスと事業部門の代表者を通して朝礼終礼で職員に伝えノートにも残し、日程の確認・変更等の案件は、「事業連絡用紙」を用いて周知している。保護者には、年2回保護者会を開いて療育の方針を伝えと共に、年度初めには、料金等の必要な要件についてアプリ配信機能で周知している。	

カテゴリ-2		
2	事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行	
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(○○○○○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(○○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリ-2の講評		
支援ガイドでの5領域の視点の療育について、各部門で討議したり資料作成をしている 保護者による児童発達支援センター事業評価を毎年3月に実施しホームページにも掲載している。職員は「業務に関する自己目標・希望調査」で、年度前半に目標設定、後半に自己評価を行い、園長が面談で意向を把握している。令和6年度改定の児童発達支援ガイドライン(以下、支援ガイド)による5領域の視点の療育について、各部門で討議し資料作成をしている。地域の福祉ニーズは、区のアンケート結果等により、巡回相談や研修事業等のニーズが伝えられ対応している。事業運営の課題は、利用者・職員の意向、地域のニーズ等から理事会で決定している。 施設の環境体制整備・職員の業務改善等の取り組みが急務で、改善策の成果が期待される センターは、区の今後3年間の「江東区第7期障害福祉計画」と「第3期障害児福祉計画」を基に、両園長が前年度事業の振り返りを行い、次年度の運営方針を決めて、事業計画を章毎に分担して作成している。センターに課せられた課題には、「利用希望者は減少しておらず、保育園・幼稚園との並行通園をする児が増え、他機関との連携が重要になっている」、「施設の拡張を受けて、受け入れ児童数の増加が予定されている」等があり、施設の環境体制整備・職員の業務改善・サービス向上のための取り組みが急務となっており、改善策の成果が期待される。 事業報告では計画した施策の振り返り・検証を行い翌年度計画に反映する事が期待される 事業運営に関わる項目は、サービス提供プロセス管理・施設管理・防災・地域連携・苦情解決ヒヤリハット等、10の委員会が年度初めに計画を作成し、それを元に進捗管理の報告がある。事業毎の「通園事業日数、在籍児数、退園児数、出席状況」等の実績については、月末報告会で確認し、区にも毎月報告している。職員一人ひとりが自己目標を確認しながら達成度合いや経過の振り返りを行っている。事業報告書で運営の実績報告に加え、計画した施策の振り返り・検証を行い、その上で翌年度の事業計画にどのように反映するかのPDCAが期待される。		

カテゴリ-3			
3 経営における社会的責任			
サブカテゴリ-1(3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。		☐ 非該当
サブカテゴリ-2(3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		☐ 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		☐ 非該当
サブカテゴリ-3(3-3)			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している		☐ 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる		☐ 非該当

カテゴリ3の講評

職員研修会・事業計画・業務マニュアルを通して、社会的な規範遵守に取り組んでいる

年度初めの職員研修会では、倫理綱領、権利擁護・障害者虐待防止対策、行動規範、苦情解決の窓口、GL等の説明があり、法人の理念については読み合わせを行い、社会的な規範遵守に取り組んでいる。倫理綱領と行動規範は事業計画にも掲載し、児童発達支援の業務マニュアルでもセンターの役割と事業運営の方針、利用者の人権の尊重、個人情報保護等、福祉サービス提供者として心掛けるべき事を明らかにしている。行動規範では、「ことば・態度・服装、権利擁護、虐待防止、苦情解決、専門的役割」等について、職員がどう行動するかを示している。

利用者がこどもである事から、園の内外で起こりうる不適切な事象に対しての態勢がある

苦情は苦情対応マニュアルに沿って対応し、健康連絡表に気になる事が書かれている場合は、内容によって即応している。体温等はクラス職員と看護師が目を通し、保健担当もチェックしている。虐待防止については、家庭内様子は登園の着替えの時に身体を注意深く見ており、保育園からセンターに来る場合は情報の連絡が入る。要保護委員会は、研修会の実施・職員のセルフチェックを行い、チェック結果を収集・回覧して、勉強会のテーマに繋げて虐待防止に努めると共に、グレーゾーンはグループを作って話し合う等、不適切な支援防止に取り組んでいる。

地域他機関との連携の重要性が増し地域の福祉ニーズに対し中核的役割を果たしている

センターは、将来の専門職員確保に向け大学・専門学校等からの実習依頼には、業務に支障が出ない範囲で可能な限り受け入れていいる。保育園・幼稚園での障害児の受け入れが増えた結果、センターとの並行通園児は約9割になり、地域他機関との連携の重要性が増している。児童発達支援事業の一環での職員見学訪問、保護者との契約に基づいて当該児の施設を訪問する保育所等訪問支援、認可・認証保育園からの要望で行う法人実施の巡回相談に取り組むと共に、区内関係機関を対象に発達支援講座を行う等、地域の福祉ニーズに対し中核的役割を果たしている。

カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる 評点(○○○○●)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	☐ 非該当
☐ あり ☒ なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	☐ 非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている 評点(○○○○○)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	☐ 非該当
カテゴリー4の講評		
事故の原因分析と再発防止策が書かれているのは一部で、報告書様式の改善が期待される 施設管理・防災・保健衛生管理等の委員会が、各分野のリスク対応を検討すると共に、ヒヤリハットは報告の目安を定め、週末の終礼で時間を取って報告があり、職員はリスクを共有している。業務マニュアルの「健康管理・安全管理・給食・危機管理」で、健康の確認・けがが疾病時の対応・感染症対策、給食・排泄等の施設の衛生管理、非常災害対策計画と避難訓練・事故防止・防犯対策の対応等を定めている。事故報告書には、事故の概要・対応・その後の経過欄があるが、原因分析と再発防止策が書かれているのは一部に止まり、報告書様式の改善が期待される。 安全計画に沿って利用者・職員の安全確保に努めているが、BCPの早期策定が待たれる センターは、「安全点検、園児・保護者に対する安全指導、訓練・研修、再発防止策の徹底」からなる安全計画を策定している。計画は、感染症対策指針、災害時対応マニュアル、事故防止対応マニュアル、苦情相談マニュアルを整備すると共に、自然災害発生時と感染症発生時の事業継続計画(BCP)を作成し、利用者・職員の安全確保に努めるとしている。BCPに関しては、総則・平常時の対応・緊急時の対応等の項目と対応フローチャート等の補足資料と推進体制とメンバーを記入する様式等は決まっているが、内容は計画中であり早期の策定が待たれる。 大勢の利用児対応には、PC台数の不足を補う等の業務効率化施策が必要と考えられる 事業運営に関わる文書管理は、区との基本協定に則り、紙ベースの資料は種類毎にファイリングし、利用者の個人情報は個人別ファイルを作成し、鍵付きの所に保管している。電子情報は共通サーバーに格納し、職務階層や部門、種類別、共有等にフォルダーを分けて、アクセス権限を設定している。個人情報・PC管理委員会が個人情報の扱い・ネット環境の管理を担い、施設管理委員会が廃棄文書等を担当して情報管理をしているが、大勢の利用児対応とデータ更新、日常の保護者への情報配信には、PC台数の不足を補う等の業務効率化施策が必要と考えられる。		

カテゴリー5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリー1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当
サブカテゴリー2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

カテゴリー5の講評

作業療法士・言語聴覚士・保育士等の専門職資格を持っている人材確保に取り組んでいる

職員の採用は、作業療法士・言語聴覚士(ST)・保育士等の専門職の資格を持っている人材を確保できるように、ハローワークや専門職協会に求人を出している。STの養成校での説明会に赴きスカウトする、学生研修生を受け入れ採用に結び付ける等にも取り組んでいる。昨今、他の所で経験を積みたい等の理由で転職する職員もいて、離職防止に努めているが一定数の出入りはある。勤務1～2年目の職員は、クラス配属となりクラスでの支援を経験しセンターの療育を学んだ後、社会福祉士・保育士・言語聴覚士・心理士等の専門職チームの業務に配置される。

人材育成は研修制度充実と、地域に繋がる派遣支援者の育成・新人教育を基本としている

人材育成は、基礎的知識や技能の伝達が狙いの「初任者研修」、内部外部研修・自主学習会による「専門職の技能育成に向けた研修」と、地域の連携会への代表派遣による支援者育成及びスーパーバイザー制度での新採用職員の教育に拠り行われている。1～3年・5年未満・5年以上の経験に応じ、保有資格や受講研修を定めたキャリアパスを計画中で、早期の策定が待たれる。スーパーバイザー制度では、クラスのリーダーが指導を担当し進め方について主任・園長に相談があるが、いつまでに何をするか、したか等を確認するチェックシートが作成が期待される。

センターは、育児や介護をしながら職場を辞めずに続けられる環境整備に取り組んでいる

職員の評価は、理事長・園長が実績評価と出勤状況・業務実績・役職・研修実績・資格取得等の勤務評定により行い、辞令を渡す時に本年度に期待する事を伝えている。センターでは、育児や介護をしながら職場を辞めずに続けられる環境整備を目的に、就業規則改定の叩き台を作り、職員の意見を聞いて、男性の育休採り入れ、介護休暇の整備など、時代に合ったものに作り直した。一方、都の配置基準より手厚い基準で対応しているが、業務量の多さを指摘する声は多く、リーダー会が中心で業務の効率化に繋がる施策を検討しており、成果が期待される。

カテゴリー7	
7	事業所の重要課題に対する組織的な活動
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)	
【課題】「安全・安心な施設運営」、目標「感染症蔓延件数及び重大事故件数ゼロ」 ○取り組み 1) 衛生管理委員会を中心に施設の衛生管理に努めた。手洗い・手指消毒の徹底を図り、こまめに清掃するようにし、特にトイレの清掃はクラス毎に当番を決め清潔を保った。 2) 仮施設での運営に際して、災害時の対応や園児の行方不明を想定して搜索マニュアルを見直し、搜索ルートを作成して危険箇所を確認し、地図をスタッフルーム等見える所に置いた。 ○取り組み結果 ・当園時に必ず手洗いをする等手指消毒を徹底できた。また、体温や体調の状況をアプリに入力してもらい、内容を看護師がチェックして利用者の症状を確認した。 ・待機用に園内の待合室利用を勧め行方不明が出ないようにした。火災や地震等の発災時に対応した避難訓練を、仮施設に合わせた状況で実施した。 ・結果、感染症の発生と重大事故は起きず目標が達成できた。 ○振り返りと今後の方向性 ・感染症の拡大防止策及び事故防止策は有効に機能したので、翌年度も継続して安全・安心な施設運営に取り組む。更に、不審者対応について、マニュアルの作成と対応訓練を充実させていく必要性があると考えている。	
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評	
【講評】 <理由と目標達成状況> ・新型コロナウイルス感染拡大防止の対応に加え、インフルエンザやノロウイルス等の感染症拡大防止等、利用者が園児であるため一層施設衛生面の配慮が必要であった。移転による仮施設での運営に併せて、けが・事故の防止に努める必要があり、安心・安全な施設運営の課題に対して、目標を設定して取り組んでいる。取り組み結果の検証を行い、翌年度の事業計画の事業運営の目標にも「安全・安心な施設運営」を採り上げている。 <特記事項> ・センターは、毎年「安全・安心な施設運営」を事業運営の目標に採り上げ、衛生管理・安全確保・虐待防止・苦情要望の他、今年度は安定的かつ継続的なサービス提供への取り組みとしてBCP策定を新たに加えて事業を推進している。施設は仮施設から元の塩浜福祉プラザに戻り、占有面積も増え、けが・事故の防止に努めたいとして、BCPや感染症・食中毒予防や蔓延防止の指針に基づく訓練と体制整備に取り組むとしている。「安全・安心な施設運営」は、センターの重要テーマであり、事業計画で取り組み内容を列挙し、事業報告で取り組み結果をまとめ、翌年度の事業計画に結び付けるPDCAサイクルが回っている。	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【課題】:発達障害をはじめ気になる子の早期発見、・目標「各事業で待機児の解消に努める」

○取り組み

1)児童発達支援は、一日定員44名、在籍制限300名以内とし、低年齢児グループの半年見直しや退園児の速やかな対応で待機児の解消に努める。

2)保育所等訪問支援は、希望者全員に対応する為1人の訪問回数を年3回に絞る。

3)相談支援は、福祉サービスの利用がなくなった人と契約を解消し、適切な契約人数でのサービス等利用計画の作成やモニタリングを行う、以上を実施した。

○取り組み結果

・低年齢児グループでは、9月に初回面談を実施した利用者まで年度内の利用が可能となった。クラスで修了児が出た時点で途中入園の検討に入り、契約を最短で行う事が出来た。

・訪問回数を絞った結果希望者全員の訪問を実施した。

・契約者数と計画作成・モニタリング実施数の差が縮まった。・結果、概ね目標は達成できた。

○振り返りと今後の方向性

結果は概ね良好であり、児童発達支援は、引き続き最大限利用者の受け入れを行う。保育所等訪問支援は、普通学級に通う児の希望が増えており、小学校への支援を広げていく。相談支援は、引き続きサービスの充実に努めていく。

目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

【講評】

<理由と目標達成状況>

各事業は受け入れ人数ギリギリまで対応しており、支援の必要な児への早期支援状態が続いているため、事業毎に待機時の解消を目標に課題に取り組んでいる。結果、概ね目標を達成し、児童発達支援は、一日定員を増やして最大限の利用者を受け入れる。保育所等訪問支援は、普通学級に通う児の希望が増えており、小学校への支援を広げていく。相談支援は、引き続きサービスの充実に努めるとしている。

<特記事項>

・センターの利用希望は減少しておらず、幼児期からの支援を必要としている子供や保護者は多数いる。感染症拡大防止に伴う制限がなくなり、父母会活動を再開し、両親に加え祖父母・兄弟児等、多くの家族が見学や事業に参加できるようになった。利用児の多くが並行通園で、通園先の職員の見学受け入れ、職員見学訪問等、地域の他機関との連携を図る機会が増えている。発達障害を始め気になる子の早期発見から早期支援は、センターの事業運営目標で、取り組み結果の事実報告に加え、施策は有効なので継続する・強化する・一部変更追加して実施する等、取り組みの振り返り(検証)を加えると、更に計画のPDCAサイクルがしっかり回ると思われる。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目										
	サブカテゴリー1										
1	サービス情報の提供 サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4 評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している 評点(〇〇〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th><th>標準項目</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td><td>1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している</td></tr> <tr> <td>●あり ○なし</td><td>2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている</td></tr> <tr> <td>●あり ○なし</td><td>3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している</td></tr> <tr> <td>●あり ○なし</td><td>4. 子どもや保護者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している</td></tr> </tbody> </table>	評価	標準項目	●あり ○なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	●あり ○なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	●あり ○なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
評価	標準項目										
●あり ○なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している										
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている										
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している										
●あり ○なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している										
	サブカテゴリー1の講評										
	HPや区の子育てハンドブック・通所支援ガイドブック等で事業所情報を周知している 事業所は、江東区のこども発達センター事業として、法人内の「保育所等訪問支援事業」や「特定・児童相談事業」等と連携して、発達に課題をもつ0歳から5歳までの未就学児への専門的な療育と保護者を支える支援を提供している。区の児童発達支援における中核的存在としての役割と相談・連絡先は、「江東くらしガイド」や「子育てハンドブック」「通所支援ガイドブック」の他、区のHPでも広く紹介されている。また、親しみやすいパンフレットを用意し、今年度の塩浜福祉プラザ改修工事の進捗状況や事業再開時期等は事業所HPで都度周知している。 こどもの特性に応じたクラス編成を工夫し発達講座の開催等、地域連携に取り組んでいる 事業所では、こどもの特性に応じて、保護者同伴の低年齢児グループと幼児対象の一日コース及び半日支援コースの3種の通園コースを設けて、できるだけ多くのニーズに応え、専門性の高い発達支援を提供しようとしている。区の障害者福祉課や区内の保健相談所、こども家庭支援センターには毎年事業計画や報告書を提供し、支援状況を伝えている。区内の通所支援事業所や幼稚園・保育園の職員を対象に発達支援講座を開催して作業療法等の専門指導や療育の方針を紹介する講演や、並行通園先の先生方の見学を受け入れて地域連携と啓発活動に取り組んでいる。 問合せがあれば相談部門で初回面談を行い、通園の必要度を精査して支援につなげている 利用に関する問い合わせは、年間200～300件前後あり、まず相談事業部で受け付けて利用調整を行っている。パンフレットと相談申請書の送付や、調査票で医療的ケアの必要性等、基本的な事前情報を把握したうえで、初回面談を行っている。初回面接時にはこどもの行動観察と必要に応じた知能検査等を行い、支援の必要度を判定している。更に児童発達支援事業の情報を提供し、相談部での継続指導として、言語聴覚療法や心理発達指導、理学療法や作業療法等の個別指導に関するサービス内容を説明して、保護者の不安や個別ニーズに丁寧に対応している。										

サブカテゴリー2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	7/7
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している		○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	4. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		○非該当
サブカテゴリー2の講評			
新規利用者には事前説明会で、重要事項の読み合わせとクラス別の詳細説明を行っている 新規の通園利用者には事前説明会を設け、手元に「重要事項説明書」を用意して、年齢、曜日、通園頻度ごとのクラス編成や療育方針、年間スケジュール等の大枠をまず理解してもらう事としている。その後、クラスごとに、活動プログラムや1日のスケジュール・給食・持ち物・通園バス・アプリを使った家庭連絡・面談や相談体制等、細かな規定について担当者が時間をかけて説明し、費用負担についても了承を得るようにしている。通園開始前には保護者面談を通して、支援に対するこどもと保護者の意向を確かめて、個別の支援計画につなげている。 支援情報はファイルで一括管理し、引継ぎの際は報告書を作成して他機関と連携している サービス開始時には、個別にケースファイルを作成し、通園申込書・調査書・発達知能検査結果・相談事業の指導書や他機関からの報告書等をまとめて、成育歴や家庭環境等、こどもの支援に必要な個別の事情が把握できるようにしている。支援状況は、独自の「ニーズ調査票」や個別支援計画・モニタリング評価記録・個別指導記録等の所定の書式にきめ細かに記録して職員間で共有している。サービス終了時には保護者の同意を得て、発達支援報告書や就学支援シートを作成したり、移行支援会議の開催や就学相談説明会の協力等、速やかな引き継ぎに努めている。 年度初めは見たり聞いたりするだけで分かり易い場面設定を工夫し不安軽減を図っている 年度初めには、親子分離の不安軽減と、保護者に療育の内容を知ってもらうことも目的として慣らし期間を設けている。並行通園を経験して、すでに集団に慣れているこどもも多く、今年度は1日で終了できたが、こどもの状況に応じて慣らし期間は柔軟に設定している。サービスの利用開始直後には、次に何をするのか、こどもが不安を感じないように、見て分かり易い場面設定に努めている。立つ位置に足の形のシールを張ったり、写真やマーク・カラーリングで視覚に訴えたり、音やリズム・歌等も使って活動に参加しやすいような工夫をしている。			

サブカテゴリ-3		
3	個別状況に応じた計画策定・記録	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 11/11
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子ども一人ひとりのニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
評価項目2 子どもや保護者の希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援計画を作成している 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画は、子どもや保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 計画を子どもや保護者にわかりやすく説明し、同意を得ている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直ししている	○非該当
●あり ○なし	4. 計画を緊急に変更する場合のしくみを整備している	○非該当
評価項目3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもに変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当
サブカテゴリ-3の講評		
独自のニーズ調査票をもとにこどもの発達課題を明確にし、支援の希望を把握している 事業所では、保護者にこどもの生活や心身状況を独自の「ニーズ調査票」に記入してもらい、発達のつまずきに関するアセスメント情報として活用している。「ニーズ調査票」には、食事・排泄・着脱等こどもの生活面と、言語・行動・情緒等、発達面の普段の様子を具体的に記してもらい、保護者と課題を共有し、支援の要望を把握するツールとしている。調査項目は発達段階を踏んで設定されており、日常生活でのこどもの様子を項目ごとに頻度で示して(頻繁・時々・少ない)発達課題を推し測り、要望の度合い(大◎中○)を確認して支援計画に反映している。 個別支援計画は半期ごとに成長過程を評価し、報告書をまとめて見直しをおこなっている 「ニーズ調査票」と面談を通じて支援目標と意向を確認し、保護者への説明と同意を得て個別支援計画を確定している。支援計画は、「ニーズ調査票」に呼応する形で、長期・短期の目標、項目別の支援内容を具体的に示し、支援の優先度も記載している。半期、6か月毎に、支援計画に沿ってこどもの変化・成長を評価し報告書にまとめていく。保護者にも半期毎に調査票を見直してもらい、調査の結果と報告書のまとめをもとに、次の支援計画を策定している。また、トイトレーニングが成功した時等、こどもの成長に合わせて随時計画を見直している。 家庭連絡はアプリで確認し、支援情報は朝・終礼の申し送りや各種日誌で共有している 家庭連絡はアプリを使い、健康情報や家庭での様子をウェブ上で確認している。集団活動や個別指導の内容と支援経過は、クラス日誌やサービス提供記録等に詳細に記録し、支援に関わる職員はPC上やケースファイルに必要な情報を共有している。また、朝・終礼での申し送りや振り返りを毎日行い、タイムリーに情報を交換している。地域連携の為に連絡書類や各種報告書の作成業務が多く、記録様式の簡略化を求める声も上がっている。管理者は個々の職員の記録作成スキルの向上を図ることも課題としており、短時間でも研修の機会を確保したいと考えている。		

サブカテゴリ-5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部和やりとりする必要がある場合には、子どもや保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	2. 日常の支援の中で、子どものプライバシーに配慮した支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている		○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の支援にあたっては、個人の意思を尊重している(子どもが「ノー」と言える機会を設けている)		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	3. 施設内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している		○非該当
サブカテゴリ-5の講評			
個人情報了他機関とやり取りする際は、事前に保護者の同意を確認し慎重に対応している 人権擁護やプライバシー保護の重要性は職員研修でも繰り返し取り上げており、個人情報管理規定やマニュアルを設けて慎重な取り扱いに努めている。契約時に個人情報の管理に関する説明を行い、同意を得ているが、こどもの情報を他機関とやり取りする場合は改めて事前に保護者の承認を確認している。家庭との日常的な連絡や支援記録・業務日誌等はウェブ上で閲覧し、共有しているが、職層に応じたアクセス制限を設けて必要な範囲以上に情報が漏れないように図っている。また、電話での問い合わせ時には名前の確認を徹底し、正確な対応に努めている。 スペースに限りがあるものの、相談場面では、プライバシーへの更なる配慮が期待される 個人面談や相談、報告事項は、出来る限り個室で行うよう努めているが、相談室が塞がっていることが多く、廊下の端などで、距離を置いて対応せざるをえないことも多い。保護者からは、面談内容が他に聞かれてしまったり、他の方の話が聞こえてしまうことがあることに困惑する声が上がっている。保護者同伴クラスでのやり取りや、タイトな面談スケジュールを組まざるを得ない時間的制約があること。加えて、限りあるスペースという環境上の制約もあって難しいが、出来る範囲で、更に一層プライバシーへ配慮した対応を工夫されることが期待されている。 療育にあたっては、こどもの「否」という意思を尊重し、無理をせず対応を工夫している 療育においては、こどもの興味関心を引きだし、意欲を高めることを基本方針としており、「〇〇をしなさい」ではなく、やってみるよう促し、発達段階に応じたプログラムを工夫している。こどもが「否」と意思表示したときには、無理をせず他のアプローチを工夫したり、時間をかけて根気よく気持ちを向けるように働きかけている。また、振り返りミーティングで「否」の原因を推し測り、気持ちに寄り添った対応方法を検討している。こどもの噛みつき等が起きた時は、速やかに状況を保護者に報告し、心理職や看護師とも相談して予防対応を検討している。			

サブカテゴリー6			
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(○○○)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている		○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを定期的に点検・見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している		○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(○○)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている		○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている		○非該当
サブカテゴリー6の講評			
職員が活用しやすいよう新たなマニュアル作成に取り組み、業務の標準化を図っている センターの事業は児童発達支援ガイドラインに基づき実施されており、療育の基本理念や支援方針、プログラムに関するマニュアルを整備している。また、社会的規範、権利擁護や虐待防止、個人情報保護、健康・安全管理、給食についての危機管理対応マニュアルも作成し、年度初めの職員研修で周知してきた。しかし、職員がより活用しやすい形にすることが課題となり、コンサルタントの助言を受けて改定を進め、センターの事業をまとめた新たな業務マニュアル案が完成した。今年度中には職員へ改定版を周知し、業務の標準化をさらに進めていく予定である。 クラスリーダー中心のOJTと振り返りの仕組みで職員間連携と成長を促している 職員は通年で担当クラスに配属され、クラスリーダー職員が中心となり新人や異動職員への指導を行い、業務のスムーズな遂行を支援している。施設長や役職者は、巡回やクラス補助、ケース会議への参加を通じて現場状況を確認し、必要に応じた指導を実施している。職員一人ひとりに成長段階に応じたOJTプログラムが設定され、マニュアル活用やリーダー、施設長への相談で支援体制を強化している。また、午前支援クラスは午後に、1日支援クラスは夕方に振り返りや打ち合わせの時間を設け、職員間で支援内容を共有し、改善を図る機会を設けている。 児童発達支援ガイドライン改定を踏まえて事業内容の見直しに取り組んでいる 年度末には事業報告書を作成し、区に提出している。次年度の事業計画書を作成する際にサービスの基本事項を見直し、業務マニュアルの改定を行っている。事業内容に変更がある場合には利用者の意向を確認し、了承を得ている。日常支援に関する内容は各クラスで見直し、共通事項については事業所全体会議で提案・検討している。また、クラス単位でテーマを設けてリーダー職員によるミニ学習会を実施し、今年度は児童発達支援ガイドライン改定を受け、法人内2事業所合同で個別支援計画作成に関する研修会を開催し、業務標準化に取り組んでいる。			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリー4	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	26 / 26
1	評価項目1 個別の支援計画に基づいて子ども一人ひとりの発達の状態に応じた支援を行っている	評点(〇〇〇)		
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 個別の支援計画に基づいた支援を行っている	○非該当		
●あり ○なし	2. 子どもの特性に応じて、コミュニケーションのとり方を工夫している	○非該当		
●あり ○なし	3. 関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって、支援を行っている	○非該当		
評価項目1の講評				
保護者の要望を汲み取り作成した個別支援計画で各領域ごとの目標を掲げ支援している センターでは法人独自のニーズ調査で保護者の要望を汲み取り、個別支援計画に基づいて健康・生活、運動・感覚、認知・行動、言語・コミュニケーション、人間関係・社会性の5領域の各項目ごとに具体的な目標(スプーンとフォークを使い分けて食べる)と支援内容(「〇〇はさすと食べやすいよ」など食材に合わせた使い分けを伝える)を示し優先順位をつけて支援している。半年ごとの報告書では各項目ごとの目標に対する評価に加え、集まり遊びや身体交流などの集団指導、視覚学習等の言語・認知指導での課題に対する今の様子を保護者に説明している。 職員は子どもが理解できる方法で伝え、子どもの反応を見て理解しているか確認している ことばの遅れに不安を抱える保護者から、二語文での意思表示や指示を理解し、嫌な場面でも癇癪を起こさないで欲しい等の要望が多くある。職員はこどもの発達状況を捉え、ことばや絵カードや見本を示し、身振りに合わせて短い言葉で伝える等、こどもが理解できる情報にして伝えている。また、理解はしているが、ことばでの表現が難しい場合は指さして選ぶこともある。職員は限られた時間の中でこどもの理解度に応じて、名称や動作語の語彙を増やすとともに「クレヨン」+「ちょうだい」を聞いて行動に繋がるよう専門性の高い療育を目指し支援している。 職員と並行通園先の職員は互いに子どもの通園先を見学し連携して支援している 子どもの多くは並行して幼稚園や保育園に通園している。職員見学訪問では職員が並行通園先の幼稚園や保育園を見学し通園先の職員と意見交換をしている。また、並行通園先の職員がセンターを見学し互いに連携して支援している。年度末や支援終了時には保護者の希望に応じて対象児童の移行支援報告書や発達支援報告書を作成し子どもが通う幼稚園や保育園に提出している。小学校に入学する際は区の就学支援シートに支援報告書を添付し情報提供している。特別支援学校等では移行支援会議を行い、各児童への支援がスムーズに引継がれる体制を整えている。				

2 評価項目2

子どもが食事を楽しめるよう支援を行っている

評点(〇〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 食事時間が楽しいひとときとなるよう環境を整えている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの状態やペースに合った食事となるよう、必要な支援(見守り、声かけ、食の形態や用具の工夫等)を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが安全に食事をとれるよう取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 食物アレルギーや疾患等については、医師の指示に従い、対応している	○非該当
●あり ○なし	5. 食についての関心を深めるための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	6. 子どもの状況をふまえ家庭での食事について助言を行っている	○非該当
評価項目2の講評		
手づかみで食べかけたり箸に興味を示す子どもの食具への関心を引き出す支援をしている 低年齢児グループ(親子)、幼児グループ(3歳児、4・5歳児)の一日支援コースと半日支援コース(午前)では給食があり、午後の半日支援コースはない。給食時は子どもがテーブルを囲んで食事ができるよう机を並べ替え、子どもは手洗いを終え自分のコップやスプーン、フォーク、箸等とおしぼりを持って席に着き、職員は献立を伝えながら子どもの名前を確認して配膳している。「いただきます」の後、手づかみで食べようとする子どもには「スプーンで食べてみようか」と促し、箸に興味を示す子どもには「すごい」と声掛けをして食事を支援している。 「給食申請書」で給食希望やアレルギーの有無、食形態、宗教上・嗜好等を確認している センターの給食は福祉プラザの厨房で調理している。センターでは利用開始時よりもより年度初めに保護者が提出する「給食申請書」で給食希望の有無、アレルギーの有無、食形態(おかゆ等)、宗教上・嗜好等を確認している。アレルギーがある場合は「食物アレルギーに関する申請書」で詳細を聞き取り、主治医の指示に沿って除去、代替え、食材の変更等の対応方法を確認し栄養士と看護師が福祉プラザの厨房と連携している。栄養士と看護師は朝礼で当日の子どものアレルギー等の情報を職員と共有し、職員は各クラスで再度確認し事故防止に務めている。 歯科医に摂食指導が必要な子どもの食事場面のビデオを見せて具体的な指導を受けている 子どもの偏食に関する悩みを抱える保護者は多く、家庭でお茶を飲んだ経験がなくセンターで用意するお茶が飲めない子どももいる。職員は家庭での食事の様子を聴き取り、馴染みのない苦手な食べ物に子どもが興味を示し挑戦できるよう保護者と連携しお弁当と給食を併用したり、コップを変えたり、具材と汁を分ける等して支援している。実際にお茶が飲めるようになり、おかわりをするようになった子どももいる。歯科の嘱託医に摂食指導が必要な子どもの食事場面をビデオで見てもらいスプーンの向きや舌の動きなど具体的に指導を受けて保護者に伝えている。		

3 評価項目3 子ども一人ひとりの状況に応じて生活上に必要な支援を行っている			評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 身の回りのことは自分でできるよう、必要な支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	2. 基本的な生活習慣や社会生活上のルール等（あいさつ、マナー、交通ルール等）を身につけられるよう支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	3. 集団活動を取り入れるなど、子どもの心身の発達や社会性が育つよう支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	4. 一人ひとりの有する能力を活かせるよう個別のプログラムを実施している		○非該当
●あり ○なし	5. 送迎は、子どもと保護者等の状況に応じて送迎方法を検討し、行っている		○非該当
評価項目3の講評			
個別支援計画に基づいて食事、排泄、着脱等の生活面での支援にも取り組んでいる 個別支援計画に基づいて食事、排泄、着脱等の生活面での支援にも取り組んでいる。また、療育方針の基本的な生活習慣で、低年齢児グループでは生活リズムを作り、大人と一緒に支度、着替え、排泄、食事等を体験し生活習慣の基礎作りを掲げ、3・4・5歳児の一日支援コースでは、子どもの身辺自立を支援し身の回りの作業に取り組む生活力と生活に対して自ら意識をもって関わる力の育成を掲げている。歯ブラシを嚙む子どもに鏡を見ながら「ごしごし」「シュッシュ」と繰り返し声掛けをして子どもの動きにアプローチし、開口して歯を磨く動きを伝えている。 朝と帰りの支度、食事前の準備、活動時の身支度等の基本的な生活習慣を支援している センターでは、登園時、降園時、食前、食後等決まった挨拶を行い始めと終了を伝えている。朝と帰りの支度（朝：持ち物の分類、着替え、シール貼り、手洗い等）、食事の準備、活動の身支度など一連の流れを基本的な生活習慣として繰り返し行っている。椅子や棚、フックには各々のマーク（車、動物等）をつけ視覚的にわかりやすい環境を整え、職員は子どもの自主的な取り組みを見守りながら「つぎは？」等と次の動作に繋がるよう誘導し、子どもが生活の流れや役割、約束事の理解を深め、生活に対して自ら意識をもって関わる力を育てる支援を行っている。 言語・認知学習、手指作業、移動能力等は個別のプログラムで専門職が指導している センターは集団活動で人といふことの心地よさ、安心感、人との信頼関係を育み、社会で豊かに生きる力の土台作りを目指している。集団療育では運動機能の向上とともに、集まり活動や身体交流活動、ごっこ遊びで物や場面、人に主体的に関わる力を育てている。また、他児と一緒に遊ぶ等の対人交流の基盤となる言語・認知学習（言語理解、言語表出等）に加え、手指作業や移動能力等は各専門職が個別プログラムで個別（1～3人）に指導している。送迎は保護者対応が基本で、家庭状況により移動支援やファミリーサポートの利用もルールを決め許可している。			
4 評価項目4 子どもの健康を維持するための支援を行っている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの健康状態について、保護者や医療機関等から必要な情報を収集している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの状態に応じた健康管理を行い、体調変化に速やかに対応できる体制を整えている		○非該当
評価項目4の講評			
診断書や特別な配慮事項申請書で食物アレルギーや医療的配慮等の必要性を確認している 入園時にはかかりつけ医の診断書と保護者から既往症、食物アレルギー、医療的配慮、移動時の配慮等を聞き取り子どもの健康状態を把握している。子どもに心疾患がある場合は集団活動の可否を医師の診断書で確認し、特別な配慮事項申請書（年度ごと）でアレルギーや医療的配慮等の必要性を確認し、園児医療健康管理表にまとめている。看護師は発熱・発作・アレルギーなどの体調変化に対し配慮を要する子どもとその対応方法を一覧表にして、毎日の朝礼で職員に伝え情報を共有し、職員は各クラスで再度確認し迅速に対応ができる体制を整えている。 連絡アプリで登園前の健康状態を看護師、管理職、各クラスの職員が確認している 保護者は登園前に連絡アプリで登園前の健康状態（家族を含む体温、睡眠、排尿、排便、食事）を入力し、看護師、管理職、各クラスの職員が確認している。療育中の体調不良やケガに対して、職員は管理職・看護師に報告し対応している。熱性けいれん予防薬は「緊急時お薬連絡票」とともに事前に預かり、風邪薬、点眼薬や塗り薬等は登園時に当日のみ預かり看護師が管理している。新型コロナは5類に移行したが、手洗いや消毒等の基本的感染対策を継続し、感染症が拡大する時期には看護師が職員、保護者等に注意喚起し予防対策を強化している。 小児科、整形外科、歯科の嘱託医と連携し子どもの健康管理や個別健康相談に応じている センターには小児科（1）、整形外科（1）、歯科（2）の嘱託医がいる。小児科では1日支援コースの子どもを中心に健診（年2回）を実施し、低年齢児グループと半日支援コースは並行通園先の健診結果の提出を受け確認している。また、小児科医による発達、睡眠、疾患、導尿、栄養等の個別相談にも応じている。歯科では1日支援コースの子どもを対象に健診を実施し、事前のアンケートや給食の様子をビデオに撮り摂食指導を受けたり個別相談の機会もある。保護者が医療機関の受診を希望する際は支援経過や子どもの様子を報告書にするなど連携している。			

5 評価項目5 子どもの主体性を尊重し、施設での生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常生活の支援は子どもの主体性を尊重して行っている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している		○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの状況や希望に沿って、多様な体験ができるようにしている		○非該当
評価項目5の講評			
子どもの年齢や発達段階に応じた目標を設定し自主性や主体性を育む療育を目指している センターはこどもの自主性や主体性を育む療育を目指し、こどもの行動やコミュニケーションからこどもの意見ややりたいことを読み取り、できる範囲で対応している。職員はこどもに「これをやりましょう」「あれをやりましょう」と指図するのではなく、こどもが主体的に取り組めるよう年齢や発達段階に応じた目標を設定し、選択肢を提示したり意思確認を行うなど丁寧なやり取りを心がけ支援している。職員にはこどもに関するアセスメント力やプログラムの計画・実践力に加え、地域の発達支援を担う支援者の育成のため専門的スキルの向上を期待したい。 テーブルや椅子の配置を変えて場面を切り替え、色テープ等で場所の視覚化を図っている 職員は各活動の始まりと終わりがわかるように、集団療育、個別指導、給食の時間でテーブルや椅子の配置を変えて場面展開している。子どもが持ち物を入れる棚や靴箱、椅子等には各々のマーク(車、動物等)をつけ自分で支度ができるよう工夫している。また、子ども達が集まる場所にマットを敷き場所の視覚化を図り、身体交流等の活動でもスタートとゴールを青テープと赤テープを床に貼り視覚的に始まりと終わりを伝えている。片付けや支度の手順表を掲示し、子どもが手順表を見て行動したり自分で判断し気づいて力を積み上げていけるよう支援している。 子どもが様々な体験を通じて成長できるよう、誕生日会や季節ごとの行事を企画している センターでは子どもが様々な体験を通じて成長できるよう、年間を通じて行事を計画的に行っている。各クラスで行われる誕生日会やクリスマス会等の行事に加え、1日支援コースでは運動会、遠足、七夕、ひな祭り、豆まき等の行事を企画し実施している。子どもは園庭遊び、屋上でのプール、近隣の公園への散歩など園内外の場を活用して多様な体験をしている。また、年度初めには行事の予定を年間スケジュールで保護者に伝え、希望者全員が参加できるよう対応している。区の図書館から派遣される読み聞かせボランティアによるお話会も定期的に行っている。			
6 評価項目6 家族との交流・連携を図り支援を行っている			評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どものサービス提供時の様子や家庭での普段の様子を家族と情報交換し、支援に活かしている		○非該当
●あり ○なし	2. 家族の意見や要望を活かした支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	3. 家族の状況に配慮し、相談対応や支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	4. 子どもや家族に合った療育方法等について助言している		○非該当
評価項目6の講評			
連絡アプリの導入により、こどもに関する情報共有がよりスムーズになった 令和3年度から導入した連絡アプリにより、家庭でのこどもの様子や健康状態を事前に入力してもらい、職員や看護師が確認できる仕組みを整えた。当日の欠席連絡もアプリを通じて行い、送迎時には口頭での情報交換を行うほか、当日のサービス提供記録をアプリ内で作成して、健康面や支援内容、活動記録などを保護者が確認できるようにしている。このアプリの活用により、従来の電話や対面での対応に比べ、情報共有がより円滑になり、保護者への利便性向上を実現するとともに、家族との信頼関係の構築にもつながっている。 ニーズ調査票や保護者との面談などを通してニーズを把握し、支援に活かしている センターでは、支援開始前と半年後の個別支援計画の見直し時に保護者へのニーズ調査票を配布し、要望を把握している。さらに、月1回の面談を通じてこどもの様子を共有し、保護者の要望を把握して日常の支援に活かしている。定期面談に加え、保護者の希望や緊急時にも随時対応し、懇談会や日曜療育への参加を募ることで、ニーズの把握と情報提供に努めている。また、移動支援を利用する家庭には電話や登園日以外の面談で柔軟に対応している。毎年実施する保護者アンケートで要望を集め、結果をホームページで公開することで透明性を高めている。 保護者との情報共有と面談機会の工夫で、支援体制の強化を目指している 毎月クラスだよりを発行し、行事予定や活動のわらいを共有している。年2回保護者会を開催し、センターの取り組みを説明するほか、ミニ勉強会を実施している。保護者主体の父母会では卒園後の経験談を聞く会や学習会を企画している。利用者数の増加に伴い、面談回数や時間確保が課題となっており、現在は、こどもの活動時間中に別室で面談を行い、保護者の要望や相談に対応している。連絡アプリは情報発信ツールとして活用し、登園がない日の連絡は電話対応を基本としているが、今後、保護者からの発信を受け取る仕組みづくりを検討したいとしている。			

7 評価項目7 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の情報を収集し、子どもの状況に応じて提供している	○非該当
●あり ○なし	2. 必要に応じて、子どもが地域の資源を利用し、多様な体験や交流ができるよう支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 地域全体の在宅障害児や関係機関等を対象に、施設・設備や人材・プログラムを有効に活用した支援を実施している	○非該当
評価項目7の講評		
子育て講座やイベントなど地域情報を集め、保護者への情報提供を積極的に行なっている センター入口には地域の事業所や子育て支援に関するチラシを設置し、保護者がいつでも確認できる環境を整えている。廊下には区が発行する「子育てハンドブック」や児童発達支援・放課後等デイサービスなど各事業所のパンフレットを備え、掲示板では父母会のお知らせ、学校や支援学校の見学情報、保護者向け講座やこども向けイベント、センター内での訪問理容の予定など、多様な情報を提供している。こどもや保護者が地域資源を活用できるような情報を集め、必要に応じて連絡アプリを通じて知らせるなど、情報共有を積極的に行っている。 こどもの状況に応じて地域資源を活用し、多様な体験や交流ができる機会を提供している 保護者の希望に応じ、職員が保育園や幼稚園を訪問してこどもの様子を把握する職員見学訪問や、訪問支援員による保育所等訪問支援を実施している。また、保健相談所の研修会や子ども家庭支援センターでの集まり、地域の未就園児会、交流保育に関する情報提供も行っている。コロナ禍で中断していたプラザ祭りは来年度再開予定で、利用契約終了後も参加できるようホームページで案内する予定である。実習生の受け入れや図書館ボランティアによるお話会の定期開催に加え、遠足や公園散歩、館内の児童館の利用など様々な体験ができる機会を提供している。 地域支援力向上を目指した「発達支援講座」を開催し、こども支援の充実を図っている センターでは「発達支援講座」として、昨年度は保育園・幼稚園の教諭を対象とした研修を開催し、今年度は地域の児童発達支援事業所から10件以上の申し込みを受け、専門研修として開催を予定している。発達支援講座でのアンケートのほか、区が実施した保育所・幼稚園でのアンケート結果などからも、連携を求める関係機関からの声が多く寄せられており、法人として地域の支援力向上を目指し、研修を継続的に実施している。地域との連携を強化し、支援の必要なこどもへの支援を充実させるための取り組みを今後も継続していくこととしている。		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-3-3	子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している
タイトル①	家族連絡にはアプリを活用し、タイムリーな情報共有と業務の効率化に取り組んでいる	
内容①	センターでは、出来るだけ多くのニーズに応える為、年齢、曜日、頻度別に様々なクラスが設けられており、保護者との家庭連絡にアプリを活用することで、タイムリーな情報交換や円滑な情報の共有化を図っている。家庭からの出欠連絡やバイタル情報は、ウェブ上で関係職員が速やかに共有し、センターからは、その日の活動内容や支援の様子を保護者に報告している。事務的な連絡事項は一斉配信する等、業務の効率化につなげ、クラスによっては行事や面談予定、活動の狙い等、クラスだよりをアプリで行い、情報発信のツールとして有効に活用している。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-6-1	手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている
タイトル②	センターの業務全体をわかりやすくまとめ、新たな業務マニュアル案を作成した	
内容②	センターでは、児童発達支援ガイドラインに基づき、療育の基本理念や支援方針、プログラムに関する各種マニュアルに加え、権利擁護、虐待防止、個人情報保護、健康・安全管理、給食の危機管理対応などのマニュアルも作成し、年度初めの職員研修で周知している。今年度は、職員がより活用しやすい形に改定することを課題とし、コンサルタントの助言を得て新たな業務マニュアル案を完成させた。センターの役割、各クラスの支援内容、健康・安全・危機管理などをわかりやすくまとめており、業務標準化を目指し、年度内に職員へ周知していく予定である。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-4	子どもの健康を維持するための支援を行っている
タイトル③	職員はビデオで給食の様子を嘱託医に事前に伝え摂食指導を受け保護者にも伝えている	
内容③	センターの嘱託医（小児科、整形外科、歯科）は定期的にこどもの健診を行い個別相談に応じている。歯科では1日支援コースを中心に保護者へのアンケート行い、摂食指導を受ける場合は給食の様子をビデオに撮り事前に嘱託医に伝えている。アンケートでは保護者から家庭での食事の摂取状況（咀嚼してから飲み込めず口から出してしまう、3歳を過ぎててもだれが多い等）を聞き取りクラスでの様子（「モグモグ」の声かけに咀嚼の動きは見せる、食具の角度が斜めになり口に運べない等）を嘱託医に報告し摂食指導を受けて保護者に指導内容を伝えている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	職員見学訪問・保育所等訪問支援や発達支援講座開催等で関係機関との連携強化に努め、福祉ニーズに対し地域で中核的役割を果たしている
	内容	センターは、保育園・幼稚園などとも並行通園することも大幅に増えたことで、これら地域の機関との繋がりが強化が求められ、区との打ち合わせでも、今後の方向性として重要テーマとして上がっている。センターでは、職員を保育園・幼稚園等に派遣し療育の指導をしたり、当該認可・認証保育園からの要望で、課題のあるこどもの個別療育指導の巡回訪問を行っている。保育園・幼稚園等の要請で、発達支援講座を開催したり、保育園・幼稚園等の保育士等を研修生として受け入れて、地域機関との連携強化や福祉ニーズに応え地域の中核的役割を果たしている。
2	タイトル	センターは限られた支援機会しかないこどもにも、個々のニーズを正確に把握し、平行通園施設と連携して実践的なプログラムを提供している
	内容	センターでは、地域の利用ニーズに応えるため、一日定員44名に対して267名の利用者を受け入れていることで、週に1回や月に1回しか通園できないこども達もいる。センターは、限られた支援機会の中でも、個別のニーズを正確に把握し、実践的なプログラムを提供している。また、平行通園している保育園や幼稚園などと、こどもの共通の課題を認識し、その解決に向けて連携して取り組んでいる。例えば、ことばの遅れのあるこどもには、二語文での意思表示や指示の理解を促進させることで、本人の気持ちをことばで表現できる療育の成果をあげている。
3	タイトル	職員はこどもに活動の始まりと終わりを伝え、生活の流れを見通し不安になることなく役割や約束事を理解し自身の身辺自立を促している
	内容	センターでは、登園時、降園時、食事の前後や活動の始めと終わりには、挨拶、歌、「手はお膝、ピッ」などの声掛けとともに、机や椅子、マットなどの配置を変える場面転換が行われている。職員は、挨拶などのことばに加え歌(リズム)や場所を示すマーク(動物や乗り物、洗面台に立つ位置の足形、スタートとゴールの色テープ等)の視覚情報から、着替えなど身支度や手洗い、歯磨き、片付けなど生活の流れに不安を感じるこどもが少なく実行できるように支援している。こどもは、生活の流れを通じて、役割や約束事を理解し、自身の身辺自立を促している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	事業報告書は計画書の章単位で実績報告があるが、計画時の取り組みの振り返りの記載を追加して翌年度の事業計画に反映する事が期待される
	内容	事業計画は、施設運営の方針・事業運営の目標・各事業の進め方等、章単位で詳しく実行施策を定めている。事業実績は月次で通園児行数・在籍児数等の管理を行い、業務改善に関する取り組みは、10の委員会を設置し効率的な施設運営を目指している。年度末に両センター長が事業計画の振り返りを行い、事業報告書にまとめている。一方で、事業報告書は計画書の章単位で実績報告があるが、計画時の取り組みの振り返り(検証)の記載がなく、取り組みは成果をあげたか、修正すべきかの判断記述を追加して、翌年度の事業計画に反映する事が期待される。
2	タイトル	事故報告書には、事故の概要・対応・その後の経過欄があるが、事故の発生原因の究明と再発防止策の欄を追加する事が期待される
	内容	センターの安全管理は、マニュアルの整備・事故防止対策等を実施すると共に、新型コロナウイルス感染症編及び自然災害編のBCPを策定し、利用者・職員の安全を確保するとしている。事故防止対応や危機管理マニュアル等の整備に加え、ヒヤリハットは、報告の目安を定め、終礼時に報告がある。事業報告書で、月毎の件数と内容別にまとめ、事故は全て事故報告書を作成して再発防止に取り組んでいる。事故報告書には、事故の概要・対応・その後の経過欄があるが、発生原因の究明と再発防止策に言及する報告は一部で、報告書に欄として追加する事が期待される。
3	タイトル	経験年数に応じた保有資格・受講研修に加え、職位や専門講師の職務内容や求められる能力等を明確にしたキャリアパス作成が期待される
	内容	すべての支援職員は、療育専門指導員や理学療法士、心理・言語療法士など専門資格を有している。事業所は、これら専門職に、療育課題の理解の深化、指導スキルの向上を図る研修を実施している。具体的には、専門講師によるケース検討会(内部研修)、発達支援などの制度理解に関連した外部研修、職員の他専門職取得への自主学習会が行われている。一方で、初任者、1年～3年、～5年、～10年以上、主任、管理者・経営層等職位に即した期待値(役割)を明確にしたキャリアパスが示されておらず、組織運営の継続性にとって、課題の一つとなっている。